

# 研修トレーナーの1Patient体験記③

こんにちは。製薬企業向けのトレーニングを担当している、Nです。

「1Patient」を研修ツールとしてどのように有効活用するか、日々考えています。

2020年、本来ならオリンピック・パラリンピックが行われ賑やかな年になるはずが、新型コロナウイルスの蔓延で、何とも動きが取れない苦しい1年になっていますね。

私たちトレーナーも例外でなく、対象者となる皆さんを集めてのトレーニングが難しい状況があります。

各企業のトレーナーの皆さまも、いかに人材育成をするか、まさに苦心の年です。

この環境下での学習手段として、オンラインでのやりとりが普通のことになりました。

各企業ともオンラインでのやりとりでは、さまざまなツールを採用されていると思いますが、多くの場合、画面共有して会話できると思います。「1patient」なら、実際の症例に基づいた活動内容の検討が可能です。

トレーニングを提供する側から画面共有しても良いですし、症例を予め指定してそれを共通の検討材料とすることもできますね。医療従事者各位との次の面談に備えたトピックの選定なども、「1patient」各症例の詳細のデータからオンライン上でMRの皆さんと進めることができそうです。

ただ、オンラインでのトレーニングで課題となりそうなことが、トレーニング効果の測定と成果の評価です。これに関しては、現場のマネジャーとの協力が大切ですね。

私が経験の浅いころにした失敗としては、トレーニングで情報だけ提供し、その評価の仕組みがなく、あとは現場任せ、という残念なものがあります。よくある失敗ですが、これは各企業にとって知の共有、経験の共有という面でもったいないことです。

そのため、1Patientを営業現場の方との共通のツールとして、医療従事者と共有した話題やそれに対する関心度などを、医療従事者とのコミュニケーションを取ったあとの成果として残し、次の機会のプランにつなげられれば良いのかな、と思います。

この知の蓄積や経験の共有のプロセスは、ひと手間かかるので営業現場からは嫌がられるのが常ですが、しっかり目的をご理解いただき、企業の財産としていきたいものです。

今回は1Patientを活用したロールプレイをトピックに取り挙げる予定です。

## トレーナーNの略歴

『まもなく五十路を迎える男性トレーナー。製薬企業における人材育成・研修担当として20年以上、MRの育成にかかわる。MR・マネジャーの成長が何よりの喜び。』